

5月の保育（○ねらいと担任の思い）

< 4歳児 りす組 >

入園して1ヶ月、子どもたちは徐々に園生活に慣れ、興味をもった遊びや場に自分から関わったり、身支度や弁当準備などを自分なりにやってみようとしたりする姿が見られるようになりました。はと組との関わりでは、すぐ近くにいる頼れる存在として親しみを感じながら、一緒に過ごすことを喜んだり、自分から名前を呼んで関わったりしています。遊びの中でもはと組から刺激を受け、虫探しをしたり、草花を使ったごちそう作りを楽しんだりするなどの姿が見られています。関わりの中で芽生えるはと組への憧れや、「同じようなことをやってみたい!」という気持ちを十分に受け止め、興味・関心が広がるきっかけとしていけるように援助していきます。

4月には本村小学校との様々な交流活動を経験し、小学生や小学校の先生と関わることを楽しみました。教室、体育館、保健室など校内の様々な場所に足を運んだことで、小学校を身近に感じる姿が見られるようになりました。今月は体験給食や幼小合同運動会への参加など小学校との交流に加え、新しく近隣の保育園との交流活動、港区立麻布図書館でのおはなし会への参加といった地域との交流が始まっていきます。新しい人との出会いや園外での活動には、期待や緊張など様々な気持ちを感じると思います。親しみある教師や友達と一緒にいることで安心して楽しんでいけるよう、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら教師自身も活動を楽しんでいきます。

- 気に入った遊びを繰り返し楽しんだり、新しい活動に自分なりに参加したりする。
- 教師や友達に親しみをもって関わる中で、安心して自分の思いを表す。
- 園生活での生活の仕方が分かり、できることを自分でしようとする。

< 5歳児 はと組 >

4月には、進級した喜びから張り切って身の回りのことや、当番活動に取り組む姿がたくさん見られました。りす組との関わりの中では、相手の困っている様子に気づき、すすんで手を差し伸べる場面が多々あり、はと組としての意識と、小さい相手を思いやる温かい気持ちを感じました。

遊びの中では、春の自然に触れることをとても楽しんでいます。「はと組探検隊」として、それぞれに図鑑と虫めがねを持ち、ビオトープ周辺の豊かな自然の中で新しい発見を喜んだり、気付いたことを教師や友達に知らせたりしています。相手の様子を刺激に、「自分もっと見つけたい!」と張り切ったりする様子も見られています。花びらや草をすりこぎで潰し、色水作りも始めました。一緒に遊ぶ中では、「私はこうしたかったのに」「あんなふうに言われたのは嫌だったな」など思いがすれ違う場面もありますが、それも大切な経験です。それぞれの気持ちを受け止めた上で、相手に伝えられるよう橋渡しをしたり、相手の思いに気付けるよう話をしたりしていきます。

後半には地域の保育園の子どもたちとの交流活動があったり、幼小合同運動会に参加したりします。新しい友達との出会いを喜び、関わって遊ぶ中で互いに親しさを感じられるようにしていきます。また、心地よい気候の中で、大勢の友達と一緒に走ったり、踊ったりして、体を動かし遊ぶ気持ちよさも味わえるようにします。

夏に向けて、夏野菜の栽培も始めます。昨年度の年長組がしていたことを思い出しながら、土作りから取り組み、収穫を楽しみにしていきたいと考えています。

- 自分の思いや考えを相手に分かるように伝えたり、友達の思いを聞いたりしながら生活や遊びを進めていく。
- 戸外に出て、友達と一緒に思い切り体を動かして遊ぶ楽しさや解放感を味わう。
- 身近な自然に進んで関わり、取り入れて遊ぶことを楽しむ。